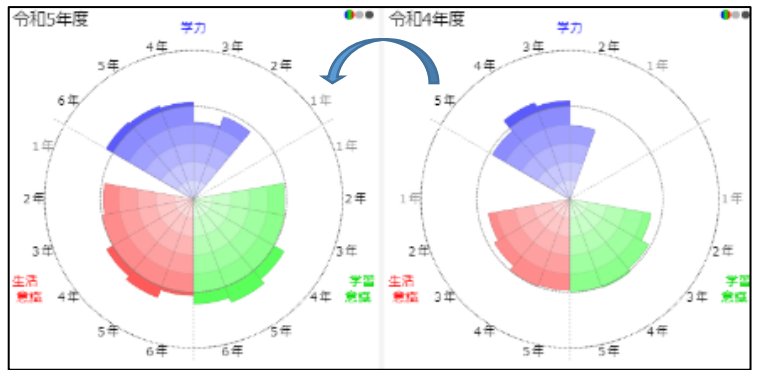


令和5年度 横浜市学力・学習状況調査からの実態把握

★学力の概要と要因の分析

チャート1を見ると、今年度の4～6年生は横浜市の平均を上回る学力を身につけていることが分かった。昨年度と比較すると、4年生と5年生ではほぼ変わらないが、6年生の学力は大きく伸びていることが分かる（※昨年度の5年生は今年度の6年生）。3年生は横浜市の平均を下回っていたものの、昨年度と比較すると学力はやや伸びていた。2年生は初めて学力調査を実施したが、横浜市の平均に近い学力を身につけていることが今回の調査によって明らかになった。

チャート1 『学年ごとの学力・生活意識・学習意識』



この要因について、表1のように秋葉小全体の国語・算数の正答率を比較してみると、算数の方が平均正

表1 『国語・算数の平均正答率の比較』

国語	知識・技能	66.9%
	思考力・判断力・表現力等	56.8%
算数	知識・技能	76.1%
	思考力・判断力・表現力等	60.8%

答率は高く、知識や思考力が身につけていることが分かる。本校では、令和2年度から算数の重点研究として『できた・わかった・楽しい・使える』という思いをもち、生き生きと自分の考えを表現できる子の育成を目指してきた。その中で、児童にとって身近なものを題材にして学習への関心を高めたり、学び合いの中で自分の考えを積極的に表現できるようにしたりしたことが算数の学力の向上に繋がったと考えられる。また、チャート1の意識調査の結果と比較すると、よい生活習慣・学習習慣を身につけている児童や、各教科特有の学びの楽しさを感じている児童が昨年度よりも総体的に増えたことが分かる。これは、家庭・地域からの支援や協力があってこそその結果であることは論をまたない。学校・家庭・地域が力を合わせて、児童の学習意識の向上や良い習慣の定着に尽力した結果、算数だけではなく、他の教科の学力向上にも結び付いたと推察する。

チャート2を見ると、2年生は、算数の知識の項目において横浜市の平均を上回っている。しかし、各教科における学習意識が横浜市の平均を下回っているため、自分事として学ぶことができる授業展開をしたり、達成感を得られる活動を取り入れたりしていく必要がある。3年生は、国語・算数の学習意識は横浜市の平均よりも上回っている。その意欲を大切にしていきながら、分かったと思えるような授業を行い、知識の定着を一層図る必要がある。4年生は、4教科を見ても横浜市の平均を上回っている。今後は、理科の実験等の予想や考察に重点を置いて授業展開を行う必要がある。5年生は、学習意識も学力も横浜市の平均を上回っているため、子ども達がより主体的な学習ができるように授業を展開していきたい。しかし、国語の知識の項目においてやや課題が見られるため、言葉に関する知識や漢字の定着をより一層図る必要がある。6年生は、算数以外の4教科で横浜市の平均を上回っており、特に外国語の学力が非常に高いと言える。今後は、算数の思考にやや課題が見られるため、自分の考えをじっくりまとめる時間を設けたり、友達に自分の考えを説明したりすることを大切にしたい。

チャート2 『学年別・教科別の学力・生活意識・学習意識』

